

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第757号 平成26年6月23日

## MIND

「MIND」は、心、精神、理性、知性を意味する言葉ですが、全日本柔道連盟（全柔連）は日本柔道再生のキーワードとして、この言葉を掲げています。

これは、日本柔道の再生のためには、柔道の創始者である加納治五郎の精神、つまり日本柔道の原点に立ち返らなければならないという意味の表れとあって良いでしょう。

また、「MIND」という言葉には、それ自体に大きな意味がありますが、同時にこの言葉は

Manners（礼節）

Independence（自立）

Nobility（高潔）

Dignity（品格）

という4つの言葉の頭文字を繋げたものでもあります。

全柔連副会長で柔道MINDプロジェクト特別委員長として同連盟の改革に先頭に立って取り組んでいる山下泰裕氏は、「MIND」提唱の経緯について、「指導者の暴力は日本のスポーツ界全体に容認の空気がある問題だった。それを変える努力をしてきたが、『罰則を作ると、逆に陰湿な形がはびこるのでは』との声が出た。そこで柔道本来の姿、目指すべき方向を示そうとなった」と説明すると共に、「MIND」の個別のテーマについて、次のように述べています（4月26日付朝日新聞から）。

- ・礼節：柔道は礼に始まり、礼に終わる。敗者を思いやる心が真の勝者を育てる。
- ・自立：指導者にコントロールされ過ぎない選手になる事。最終的には一人で考え、成長する事が教育だ。
- ・高潔：誇り、プライド。
- ・品格：人間としての格を高める。勝利至上主義ではダメ。

山下氏の説明に対して、皆さんはどの様に感じられたでしょうか。今更という感じがしなくもありませんが、しかし現実を見れば、この当たり前の事がどこかに置き忘れられ、勝利至上主義の中で指導者による暴力事件が発生したという事なのだと思います。

多分、全柔連においても、これまで組織内部で改革の必要性を感じ、改革に取り

組んできた方はいると思います。しかし、どのような組織であれ、改革、改革と大上段に振り被ってみても組織はそう簡単に動かぬものです。いい換えれば、改革にはそうそう特効薬がある訳ではなく、結局のところ構成員一人一人の意識が変われるか否かでその成否は決まる事になります。

「全ては人づくりから」というのは、全ての組織に共通する課題です。その意味で、全柔連が改革のキーワードとして「MIND」を打ち出した事は、当を得たものといえましょう。

「これが柔道本来の姿である」と世界の柔道家に自信をもって見せられる、そんな日本柔道になって欲しいと願っています。（塾頭：吉田 洋一）